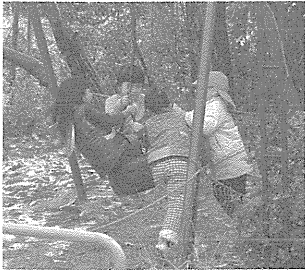


に、四輪車に乗った子どもたちが私たちを引かんばかりにストレスを横切っていきます。そして屈託のない笑顔を振りまいて去っていくのです。見学者慣れたその行動に思わず私も笑みがこぼれてしまいました。

園庭では、小さな紙袋を持った子どもたちが木の下で懸命に何かを探していました。それは、ドングリ。何やら食べられるドングリということ、見に行くと、「ほらー、見て！こんなにあるんだよ」「先生にも見せてくる」と走って行ってしまいました。また、ほかに、サッカーをしていたり、ブランコに吊る



▲タイヤ回し

されているタイヤに複数人で乗って、みんなで回して回転を楽しむ姿もありました。

中でも、木の板で作られた崖がけのぼ

りのような遊具「屋根のぼり」では、年少さんが、崖に吊るさられているロープを取ろうと何度も必死に挑戦する姿が見られました。この崖に

は、届きそうで簡単には届かない位置にロープが吊るされていて、握力、脚力などがある程度育っていないとのほれないようになっていきます。途中、年長さんが手本を見せてのぼってくれたのですが、この日はとうとうその年少さんはのぼれませんでした。あの悔しそうな表情は忘れられません。しかし、のぼれる日は近いに違いありません。ちなみに、のぼった年長さんは、遠くを眺めて、気持ち良さそうな表情を見せていました。



▲屋根のぼり